

Chairman's Correspondence

日本の教育は全人教育？

京都大学の先生方が書いた(「日本の教育はダメじゃない—国際比較データで問いなおす」ちくま新書, 小松光/ジェルミー・ラプリー著作)という本に、**日本の大学生は勉強しないが、大人になったときの能力はトップレベル**(というか世界一位！)という記載がありました。



OECD(簡単に言えば先進国クラブ)の調査の結果です。先進国では日本の大学生の勉強時間は最下位に近いのですが著者は日本の大学生はアルバイトを通じて社会の一側面をみたり、部活動やサークル活動で大人たちのやっている仕事上のプロジェクトの予行のようなことをやったりしているからといいます。私もその意見に賛成ですが、さらに私は日本の教育は、しっかりした初等教育に支えられているということも寄与していると思います。

小学校ではいわゆる「班活動」があり、当校で言えば「児童会、ハウス活動、委員会活動、クラブ活動、行事のプロジェクト活動等々」を盛んにやっております。「班活動」など、古臭いと思われるがちですがコツは 21 世紀を生きるうえで重要な対応力を養うのに役立っているのです。

先日運動会も無事終わりました。雨も降らず、暑くなく、寒くなく、運動会日和に恵まれました。さすがに幼稚園や保育園から卒園して 2 カ月の 1 年生は、その後疲れが出たようですが、もうすっかり立派な小学生でした。

外国と大きく異なり、日本の初等教育の特徴に「**体育**」と「**給食**」があります。

日本の体育は平均週 3 時間以上。週に 1 時間もない米国とニュージーランドは世界ワースト 1, 2 位(映画で高校生が良く運動をしていますがあればクラブ活動)。さらにヨーロッパでは体育は地域のスポーツクラブが担っています。そもそも学校は「勉強するところ」という国が多く体育などはほとんどおまけの授業で、力を入れていません。そこへ行くと日本はしっかり時



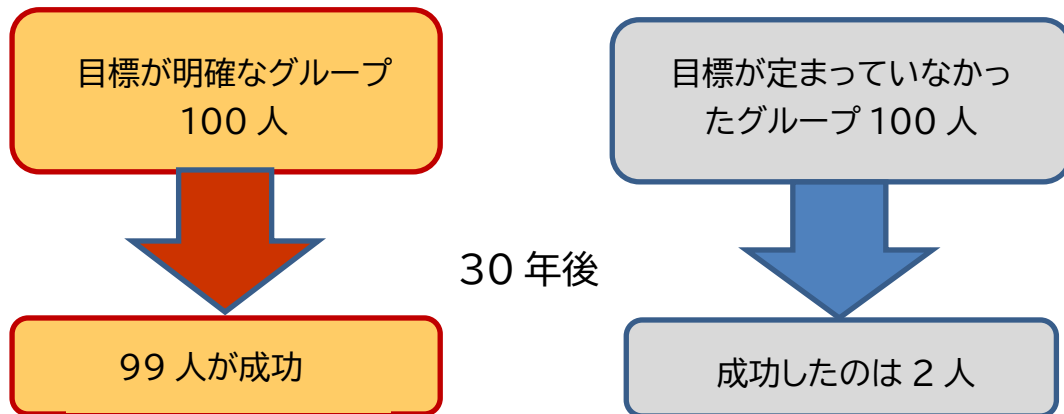
間を確保し、リリーベールでは、春(運動会)秋(マラソン大会)冬(ドッジボール&縄跳び大会)と大きな行事を催し、目標をもたせ特に力を入れて体づくりを担っています。この時期に築いた元気な体は一生の宝です。さらに「給食」は海外には少ない独特な制度で、栄養とバランスが取れた食事が子どもたちの健康に寄与しています。日本において学校は子ども生活の大部分を占める全人的な教育をしていると言ってよいでしょう。

もうすぐ夏・・・子どもの季節。勉強に運動に、ハウスや児童会活動に、さらには演劇に頑張ってまいりましょう。

Chairman's Correspondence

偉人伝を読ませましょう

いろいろとアメリカでもめています。ランキング世界第1位の大学、ハーバード大学で同じような成績の学生100人ずつを卒業の時に「①私はこういうことをしたいと目標をもっている人のグループ」と、「②とりあえず会社に入って、社会に出て流れて能力を発揮したいという人たちのグループ」を30年後まで追跡調査した例があるそうです。



結果は、①の目標が明確だったグループの99人が成功していましたが、②の目標が定まっていなかった人のグループで成功したのは2人だけだったということでした。これは必ずしも金銭的に成功したということではなく、**人生の成功にはそのほかにも研究、名声、歴史に名の残る業績その他、様々な尺度があり、「キャリア教育」に大きな示唆を含んでいます。**

キャリア教育とは学校では狭義には、「人生の目標や、設計がうまくいかずフリーターやニートになってしまうことを避けるために行う教育。自立させるための進路の選択教育」のことです。

私はこの時期(幼少期)には、偉人伝を多く読むことが有効だと思っています。様々な人が直面した数々の課題の中、問題を克服していくことで成した業績の数々。「単にリッチになりたい」とか「IT長者になりたい」といような事だけでなく、「こんな生き方をしたい」とか「難病を治したい」「世界の恵まれない子どもたちを救いたい」といような**幼少期に「志」をもてるような教育が大事**です。

学童クラブでは夏は読書に良い季節だと考えています。夏休みの前に偉人伝を中心に図書コーナーを充実しました。

夏休み、「偉人デー」を作って、ひとつゆつくりと本を読ませてみたいものです。

